



綾川町

<https://www.town.ayagawa.lg.jp/>

〒761-2392 香川県綾歌郡綾川町滝宮299番地

TEL(087)876-1111(本庁総合案内/音声ガイド) FAX(087)876-1948

さぬきの真ん中でつくる幸せ

受け継いでつくる未来、綾川町の歩みとこれから

2022年「滝宮の念仏踊」ユネスコ無形文化遺産登録



さぬきの真ん中でつくる幸せ

讃岐平野を悠然と渡る綾川の清き流れ。のどかな田園と里山が織り成す讃岐ならではの風景。

そこに新興開発地の活気が加わって新しい綾川町の発展が始まっています。

この最も讃岐地方らしい風景の中で新しい活気が生まれる町。それが綾川町です。

さぬきの真ん中で新しい幸せづくりを始めています。



町章

綾川 (ayagawa) 町の頭文字である「a」に「川」の流れを組み合わせました。アルファベットが若々しさを、「川」の文字がこの町の由来(起源)を忘れないでもらいたいという願いを表現し、旧2町で成り立つことを意味しています。



AYAGAWA CITY DATA

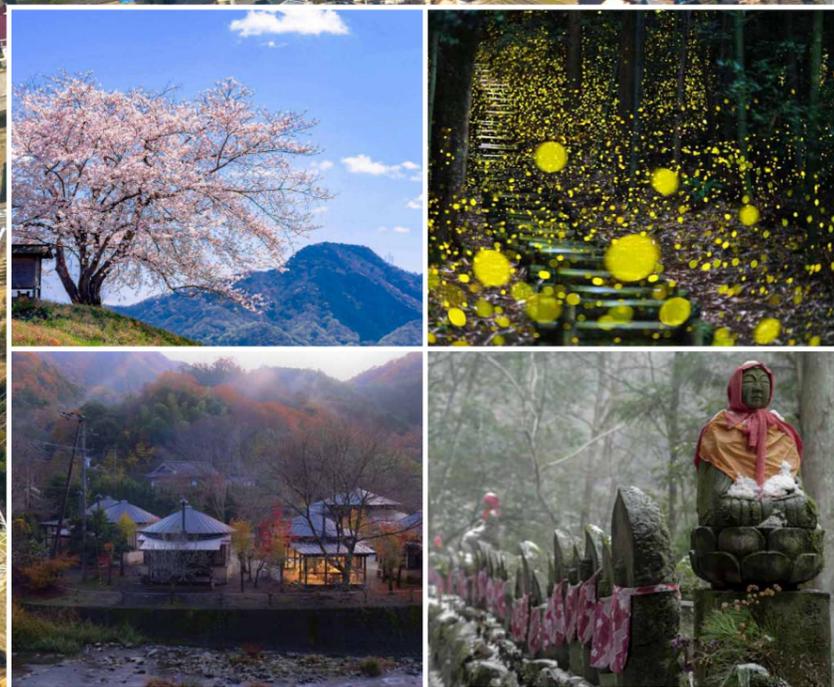
- 面積 / 109.75km²
- 総人口 / 23,325人 (2023年3月現在)
- 人口密度 / 212人/km²
- 世帯数 / 10,099世帯



町花「水仙」

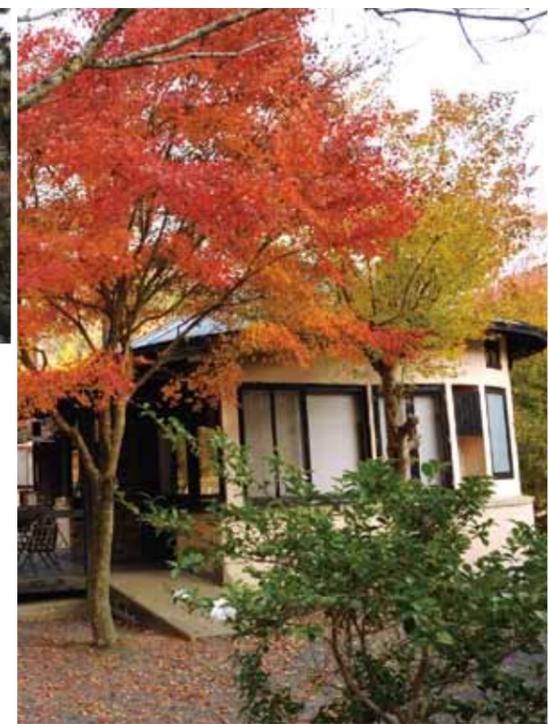


町木「梅」



自然に抱かれて、故郷をまもる

綾川町の大きな魅力のひとつ。
それは豊かな自然を身近に感じながら暮らせる環境です。
綾川の清流、里山、キャンプ村、ホテル、高鉢山風穴など
様々な自然が人々を癒してくれます。



柏原溪谷キャンプ村「TaTuTaの森」

綾川の上流、柏原溪谷にある1年を通して楽しめるキャンプ場。TaTuTa(タツタ)とはモミジの女神、竜田姫のことを指しています。柏原溪谷は「水源の森百選」(林野庁)にも選ばれており、里山の風情を残した自然を身近に感じることができます。場内にはコテージ7棟、バンガロー5棟、棚田の跡地を利用したテントサイトが14あります。コテージには、ロフト・暖炉・キッチン・バス(温泉水)・トイレ・バーベキューコンロ完備のテラスがあり、アウトドア初心者にも最適です。隣接して、企業の研修や屋外学習などに使用できる「ふるさと研修館」もあります。

Interview

春夏秋冬、いつ来られても楽しめます

春は桜が咲き誇り、5月末から7月初めごろにはホテルが乱舞します。すぐそばを綾川が流れているため夏は川遊びに最適で、バーベキューも楽しめます。コテージとコテージの間にはモミジが植えられており、秋は紅葉に染まります。冬はコテージで暖炉を囲んで鍋パーティをしたり、満天の星空を眺めたりと、四季折々に楽しめることが「TaTuTaの森」の魅力です。フル装備のコテージから、電源や電灯のあるバンガロー、キャンプ場と、アウトドアの初心者から上級者まで楽しめることも特徴です。家族や女子会、気の合った仲間やカップルと、県内や四国はもちろん、近畿や関東からもたくさんのお客様が訪れて来られます。

柏原溪谷キャンプ村「TaTuTaの森」管理人

自然に抱かれて、故郷をまもる

里山再生活動



高齢化によって、森や竹林などの荒廃が進んでいます。そのような環境を守り生かすために、里山の再生事業が重要になります。

Interview



長尾 敏弘さん
(羽床里山クラブ 代表)

里山の再生は、住民すべての課題
マツタケ採りなど、子どもの頃から羽床の里山に親しんでいて、夜に山に入っても怖くないほどでした。植林した松は松くい虫で全滅。そのあと竹の浸食などにより、大切な里山の荒廃が進んでいきました。何とかしなければいけないと思い、2007年に里山の再生を願ってクラブを立ち上げ、竹の伐採と有効活用として、竹炭づくり、ケヤキ、ヤマザクラの植林、下刈りなどに取り組みました。現在、メンバーは6人で高齢化が進んでいます。本来、里山には人を癒す美しい景観がありました。インシシシが住みにくい里山を復活させることは、町に住む人たちにとても重要な課題だと思います。興味がある方はぜひ参加してください。絵本「木を植えた男」をお読みいただき、子どもたちにも自然を再生させることの大切さを知ってもらえたらと思います。

淡水魚の放流活動



アマゴ



綾川

綾川の豊かな自然の風景

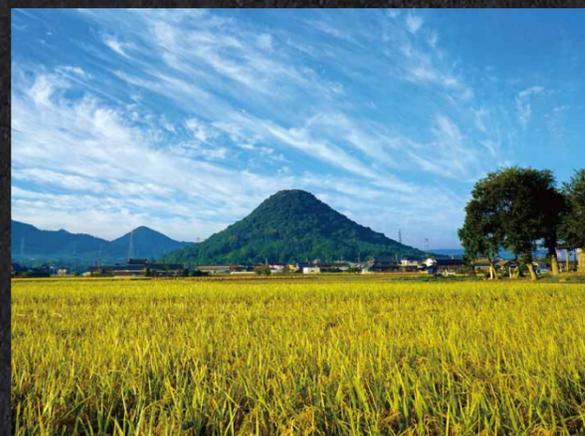
綾川町に広がる、潤いあふれる自然風景や田園風景は、大きな財産です。綾川の清流は、その源となっています。



西分の枝垂れ桜



ホタル



堤山(羽床富士)

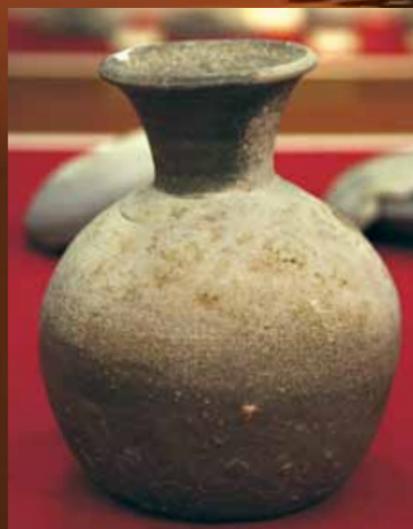


高鉢山の風穴

綾川町には、自然と人々の美しい調和があります。常に、自然に感謝しながら暮らしを築くやさしさもあります。自然を尊び、命を愛し、人を思いやり……。どこにもあるようで、綾川町にしかない幸せの原風景とも言えるのではないのでしょうか。とりわけ都会で暮らす人々には、このような風景は新鮮に見えるはずです。ぜひ一度、綾川の町を訪れてみませんか。

末則古墳群、奈良時代の窯跡など古代より綾川町に残されたロマンの痕跡。
いにしえよりこの地に伝わる文化の痕跡を知ることは郷土愛にもつながっていきます。
古代からのロマンの一端をひも解いてみましょう。

須恵器から読み解く古代ロマン



古墳時代中期に大陸より伝わった素焼き土器が「須恵器」。それまでの土器に比べ高温で焼くために、それに耐えられる良質な粘土や燃料となる豊富な樹木が必要でした。そのような環境にあった綾川町近辺では窯業が盛んになり、西日本一の窯業地域に育ったと言われています。



すべっと窯跡
綾川町総合運動公園内にあるすべっと窯跡。陶の窯跡の大半は洪積層大地の間に造られています。これは細長い谷の斜面に造られている珍しい窯跡と言われています。

街道最大の宿場町だった滝宮

こんびらさんに続く、綾川町内の旧道。当時としては、かなりの道幅のようでした。この道を歩いた人々の思いを追体験するのも楽しいものです。



滝宮の町道



畑田の町道

にぎわいの名残を残す「道標」も

「お伊勢まいり」と「金毘羅まいり」は、庶民の一生に一度の願いと言われ、金毘羅街道には道標や鳥居、灯籠があちこちに建てられ、道が整えられました。当時の綾川にも、金毘羅街道のにぎわいがありました。



道標

いにしえよりの痕跡

数多くの古墳群が残されている綾川町。その中の一つ、末則出水湧き出る山田下にある「末則古墳群」には7基の円墳が確認されています。5世紀後半から末頃の築造といわれ、特徴は穴やくぼみがあることで、土器やサヌカイト片、多量の炭化した米が出てきたことから、弥生時代には人が住んでいたと考えられています。



末則古墳群

綾川の石と思われる河原石が積み上げられた縦穴式の石室を持っています。



岡の御堂古墳

この地域の有力豪族の墓と推測される岡の御堂古墳からは、須恵器や土師(はじ)器などが出土。5世紀末から6世紀初頭に埋葬されたと思われる、短甲と呼ばれる鉄鎧など多くの武具も出土しています。

Interview



水野 一典さん
(四国民俗学会理事)

古くから交通の要所として発展

綾川は昔から交通の要所地でした。金毘羅に続く街道も町内を通っており、多くの人が行き交っていました。人の往来の多さは道標からも分かります。さまざまな偉人伝説が存在するも、そのためかもしれません。

また、多くの古墳群が点在しているのも綾川町の特徴です。須恵器とのかかわりのある「陶」という地名も残されています。

そして、最大の特徴が県内で唯一、随時水が流れていた綾川が存在があります。本流だけでなく支流も含めると多くの水車があり、盛んに製粉が行われてきました。現在のうどん文化に繋がる根が綾川を中心とした当地にあったと言っても過言ではないかもしれません。

豊富な史跡、歴史に癒される町

滝宮天満宮と菅原道真公伝説。
西行法師や法然上人が残された様々な伝説と痕跡。
国の重要文化財・十一面観音立像や地蔵菩提立像など
ここ、綾川町には多くの重要な歴史的史跡や
文化財が残されています。



うそかえ神事



うそ鳥



綾川 雅三さん
(滝宮天満宮 禰宜)

Interview

神社は人々の思いを受け止める場所

天満宮の祭神である菅原道真公は、9世紀後半に讃岐守として讃岐国に赴任しました。天満宮が鎮座している場所は、かつて讃岐国の国司官舎があった場所だとされています。天満宮で毎年8月に行われている道真公ゆかりの「滝宮の念仏踊」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。地域の方々の情熱が実った大変喜ばしいことです。踊りは時代や人種を超えて、誰もが好きなもの。これを機会に全国の風流踊と交流が持てたらと思いますし、神社は皆さんがそれぞれの思いを持って来られる場所です。いつ来られてもその思いを受け止められるよう、清らかな環境に整えてお待ちしております。

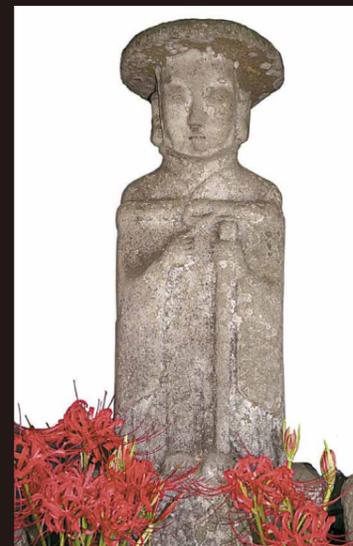


町内に残る数々の「伝説」 西行法師や法然上人の足跡も

綾川には数多くの「伝説」があります。西行法師が崇徳上皇をしのいで、讃岐にやってきましたと伝えられています。火を噴いて空を飛ぶ女人を、法然上人が封じ込めたという経塚もあります。このほかにも、町内には多くの伝統や逸話が残されています。



弘法庵



西行法師石仏

西行法師は仁安3年（1168年）に讃岐にやってきましたと伝えられています。羽床上には、西行法師が休んだので「休法師」が「安帽子」となったといわれる地名があり、帽子のようなものをかぶった西行法師の石像があります。



曲木神社のこま牛

義経伝説の残る曲木神社では珍しい「こま牛」が、私たちを迎えてくれます。何とも愛くるしい表情です。

お気に入りの「仏」に出会える

「木造十一面観音立像」は、内ぐり(木像の内部を空洞にすること)のない檜材一本造りの立像で、頭の頂上天冠台上に化仏を十面と正面に如来の立像をつけた十一面観音像です。滝宮神社の別当寺龍灯院が廃寺になり、神社の森のお堂に安置されていたのを綾川町立生涯学習センターに移転しました。

また、「木像地藏菩薩立像」は檜材、一木造りの像で、背に内ぐりをほどこし、背板を打っています。平安末期的な要素を残した鎌倉時代初期の作です。



国重要文化財木造十一面観音立像

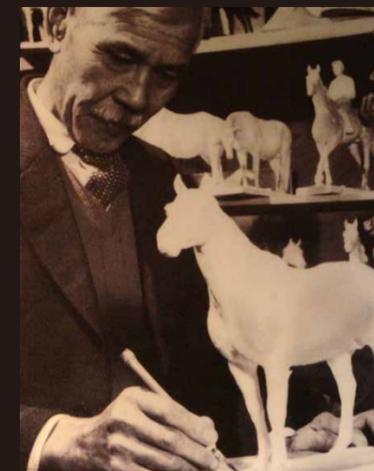


国重要文化財木造地藏菩薩立像



宮武 外骨

1867年、現在の綾川町小野に生まれ、地元の小学校を卒業後、高松崇義塾で四書五経を学びました。その後、14歳で上京し一時帰郷、再び上京。とんちとパロディーで政治スキャンダルや社会の悪徳を痛烈に批判し、日本のジャーナリズムの礎を築きました。1955年7月28日没、88歳でした。



池田 勇八

1886年、現在の綾川町萱原に生まれ、17歳の時に彫刻家を目指して東京美術学校(現在の東京芸術大学)彫刻選科に入学しました。このときに同期で後の日本彫刻界の重鎮として活躍した朝倉文夫氏からの「君は動物作家になったらどうだ」との助言が、動物作家の道を進むきっかけになりました。勇八が好んで作品にしたのは馬でした。今にも走り出しそうな生命力に満ち溢れたものでした。

1963年3月31日没、76歳でした。



ユネスコ無形文化遺産に登録 「滝宮の念仏踊」が、

綾川町には、貴重な伝統文化や伝統芸能が受け継がれています。
国の重要無形民俗文化財に指定されている「滝宮の念仏踊」は、
2022年11月には全国41の「風流踊」の一つとして、
ユネスコ無形文化遺産に登録されました。
綾川の流りに沿って、綾上に6組、綾南に5組の踊組があり、
毎年8月に3組ずつ滝宮神社と滝宮天満宮で踊り、
5年に一度11組全員での「総踊り」があります。
2023年はユネスコ無形文化遺産登録後初めての「総踊り」が奉納されます。



菅原道真

886年の春から890年の春までの4年間、讃岐に国司として在任しました。888年、讃岐は大干ばつに見舞われ、人々は苦しんでいました。道真公が身命を捧げて、降雨を祈ったところ、3日3晩雨が降り続けたといえます。喜んだ人々が道真公に感謝して踊ったことが「滝宮の念仏踊」の始まりとされます。それ以来、五穀豊穣を願い、干ばつの時は雨乞いを祈願して、1000年を超えて踊り続けられています。



Interview



有岡 俊文さん
(滝宮念仏踊保存会 北村組代表)

長い伝統を持ち、地域の絆を深める大切な行事

念仏踊りは地域の暮らしに深く関わる行事であり、神事としての威厳を保ちつつ脈々と受け継がれてきました。そして、地域の人たちが絆を深める大切な機会にもなっています。踊りの役は15を超え、一つひとつが大事な役割を担っています。私は、大きなうちわを振りながら踊る「下知(げじ)」と呼ばれる役をつとめています。ユネスコ無形文化遺産登録という吉報に接し、笑顔いっぱい、みんなで喜び合いました。世界に認められたことで、守り、伝え、育てることがますます重要になりました。念仏踊りが奉納される日には、ぜひ大勢の人たちに来ていただき、千年を超える長い伝統をもつ貴重な文化的行事にふれてほしいです。



町の活気につながる、伝統文化の継承



全国的にも珍しい、親子の情愛に溢れた綾南の親子獅子舞

綾川町の旧綾南地区に古くから伝わる「親子獅子舞」は、県無形民俗文化財に指定されている全国的にも大変珍しい民俗芸能です。親子の情愛を表現した心温まる舞は、見せ場も多く、楽しく遊ぶ様子を表現した「大せぎり」や、親が子を谷底に落とす「坂落とし」、親が子の成長を喜ぶ「帆のぼり」などから構成されています。太鼓や鐘のリズムに合わせて躍動感たっぷりに親獅子と子獅子が舞う様子は微笑ましくもあり、毎年、多くの人びとの歓声を集めています。

■演技の主な内容

親獅子の腹の下をくぐり親子が楽しく遊ぶ。
親獅子が寝ている背中に子獅子が跨り親と子が鉦に合わせて頭を振る。
子獅子を背中から振り落とすと1回転して子獅子が落ちる。
親獅子が寝ると親の背中を舐めて1回りして親を起こす。
親獅子が体で山を作り頭を乗せると子獅子が下から親の頭に近づき舐めあう。
山から下りてきて親子が並んで1周する。
子獅子に乳を飲ませて次に子獅子を谷に落として鍛える、上ってきたらもう1度落とすと子獅子が気絶する。親獅子は立ち上がり子獅子を助け上げ介抱する。
親獅子は子獅子の成長を喜び頭を合わせて舞い終了する。

■主な道具

十畳の上敷藁産、鉦 3個、太鼓 1個、幟 2本、提灯 1対、親獅子 1頭、子獅子 1頭

■出演人数

鉦 3人、太鼓 1人、幟 2人、親獅子 2人、子獅子 2人、合計 10人



末長 勉さん
(中筋獅子組 代表)

Interview

観客が感動する姿を見るのが一番のやりがい

親子の獅子舞は、全国的にも珍しい香川県内ではこの綾南の親子獅子舞だけです。起源は諸説ありますが、もとは親獅子だけの一頭獅子の獅子舞であったものが子どもにも教える中で親子獅子舞が誕生したといわれています。演技の内容は少しずつ変わってきています。綾南の親子獅子舞は中筋獅子組と、矢坪獅子組の2組によって継承されており、毎年10月の秋祭りに地元の畑田八幡宮と春日八幡宮に奉納されています。この獅子舞の見所は親獅子の子獅子に対する情愛、子獅子が親獅子を慕う親愛の表現であり、観客の皆様からは感動したというお声をいただいております。また1965年頃から各種行事に招待され出演してきました。大きな行事として高松空港開放行事、瀬戸大橋博、全国農林水産祭、全国植樹祭、全国豊かな海づくり大会、中国四国ブロック民俗芸能大会、香川県さぬきの郷土芸能まつりなどに出演しました。2013年10月に行われた、日本の祭りin石川2013に出演し観客の皆様から、あたたかい声援をいただきました。また外国での出演としてはスリランカ、とイタリアのミラノで開催された「日本の祭」文化ミッションに出演し友好を深めました。これらの活動が評価され、1977年に香川県の無形民俗文化財に指定されました。

受け継ぐ財産、豊かな農業資源

綾川の豊饒な農作物は先人から受け継がれた農業魂の実りでもあります。
先人たちは無数のため池を作り、香川用水を引き、大地を耕しながら
今日の農業の礎を築いてきました。



綾川町は農業が基幹産業の町です。その担い手の1つであるグリーンフィールドでは、若い世代を中心に、未来を見据えて情熱を持って先進的な農業に取り組んでいます。



Interview



藤本 浩二さん
(グリーンフィールド 代表取締役)

若い世代に農業の楽しさを伝えたい

グリーンフィールドは、約47ヘクタールの農地で、米や小麦、アスパラガスや青ネギ、スイートコーンなどの栽培を行っている農業生産法人です。現在の従業員は23名で、地元の若者を中心に、海外からの実習生も一緒に働いています。私たちの社訓は「農は脳なり、商は笑なり」。さまざまな方法で農業を効率化して生産性を高め、楽しく前向きに農業ができる環境づくりを積極的に進めています。スマート農業にも積極的で、ドローンやGPS付きトラクターなども導入しています。今後は全国にも販路を広げ、六次産業化にも取り組み、未来における農業の経営モデルとなるよう頑張っていきたいです。



先人から受け継ぐ 伝統農業 その誇りある実りと 取り組み

皇位継承に伴って、天皇が一世に一度行われる重要な儀式が「大嘗祭」です。
大嘗祭で使用される新米を収穫する田を「斎田(さいでん)」と呼び、東西2か所から選ばれ、
東を「悠紀(ゆき)」、西を「主基(すき)」と呼びます。
大正天皇が即位された折は、綾川町の前身、旧山田村が「主基斎田」に選ばれました。
この時の斎田は史跡として残され、記念館を建立。
毎年6月20日前後の日曜日にはお田植まつりが行われています。



お田植まつり



綾上小学校稲刈り体験



大正4年当時の写真



当時の様子を
描いた絵巻物



綾川町主基斎田記念館
大嘗祭のための米作りが行われていた当時の貴重な史料を展示しています。



Interview



石井 保洋さん
(主基斎田保存会会長)

稲作文化の伝統を伝えていきたい

大正天皇即位の大嘗祭の斎田に選ばれることはたいへんな名誉であるとともに、重大な責任を伴うものでもありました。新米を献上する1年ほど前から圃場の選定をして竹矢来で囲い、耕作従事者や田を鋤く牛も厳正に審査し、特別な農具を作るなど、大変な準備をしたと聞いています。1915年5月に行われた田植式は3万人以上の方が拝観したといわれています。この偉業を後世に伝えようと、70周年にあたる1985年に保存会が結成されました。毎年6月に香川県立農業経営高校の生徒や綾上小学校の児童、地元の婦人会や老人会が協力して「お田植まつり」を行うほか、悠紀斎田に選ばれた愛知県岡崎市との交流を進めています。こうした事業を通して、稲作文化を次の世代へと継承していくことが保存会の願いです。



伝統の技

綾川の酒づくり

綾川の町の酒づくりは200年を超える歴史を誇っています。
米どころとして知られる綾川町では、酒米「オオセト」も開発されており、阿讃山脈の伏流水を使い、さぬきオリブ酵母など、地元産を100%活かした酒づくりで全国的に高い評価を受けています。また、米を使った化粧品など、新しい試みにも意欲的です。



2009年当時の写真



2009年当時の写真

綾菊酒造の日本酒

綾菊酒造は創業以来、地元の米と水を恵みとして、地元の人たちと五穀豊穡を祈り、喜びを分かち合いながら酒づくりに励んでいます。地元の酒米を使い、香川県産にこだわるのは、目の前に広がる大地やそこに息づくものが、何よりも好きだからです。これからも地元の米と水と風、それらを共有してきた人たち、蔵を支えてくれたすべてのものを受け継いで酒づくりを続けていきます。



岸本 健治さん
(綾菊酒造代表取締役)

Interview

伝統を大切にしつつ、新しい試みにも挑戦する

綾川町は主基齋田の町で、すごく良い米がとれます。地元の米を使い、昔からのポリシーで、昔から変わらない酒づくりを続けています。当社は過去より、酒米オオセトでの造りに研鑽を重ねてきました。綾川町でのオオセト栽培は一度途絶えていたのですが、地元の農業法人グリーンフィールド様のご協力により、栽培を復活させることができました。香川県農業試験場で開発された綾川生まれの米「おいでまい」を使った酒づくりに取り組みんでいます。香川県で生まれた「さぬきオリブ酵母」と県産米によるオール香川の「さぬきオリブ純米酒」は、海外のコンテストでも高い評価を得ることができました。伝統を大切にしつつ、新しい試みにも挑戦し、海外進出も視野に入れていきたいですね。

勇心酒造の化粧品

勇心酒造は、「醸造発酵」という伝統技術と現代の科学を組み合わせた勇心酒造独自の技術によって生まれた「ライスパワーエキス」を使用した商品や、昔ながらの手造りのお酒をお届けしています。

お米と微生物の組み合わせ方によって、まったく異なる特性を持つ36種類の「ライスパワーエキス」。開発元だからこそ知りえる、エキスの特性に応じた商品開発を行うことで、人がもともと持っている力を目覚めさせ、身体機能を健全化する「ライスパワーエキス」の力を最大限に活かして、スキンケア、ボディケア、ヘルスケアなどの商品を提供しています。



うどん文化を支える実り



讃岐の名物・うどんは空海によって原型が唐より持ち帰られ、弟子の智泉によってこの地に根付いたといわれています。まさに綾川はうどん発祥の地なのです。



うどん発祥の地

うどん発祥の地として名乗りを上げている綾川町。うどんの原型といわれる唐菓子(とうもろこし)が空海によってもたらされたのが延暦23(804)年。中でもうどんの源流と言われる「ほうとん」や「こんとん」の製法が空海の弟子である智泉に伝承され、うどんへと進化したのです。空海の甥である智泉は延暦8(789)年、滝宮で生まれ、父は讃岐滝宮の官吏であった菅原氏。母は佐伯氏の出身で空海の姉にあたります。帰郷した折に自ら小麦粉をこねて「ほうとん」を作り両親にご馳走したと伝えられています。古くは弥生時代から小麦が栽培されていたこの地で、「ほうとん」はあつという間に広まり定着したために、この地の人々はうどん発祥の地が滝宮近辺だと信じてきたのです。

綾川町さぬきうどん研究会

「綾川町さぬきうどん研究会」は、うどん文化の啓蒙活動に取り組んでいます。休日には、ボランティア活動を中心にうどん打ち講座やイベントにも参加しています。



智泉大徳肖像画(法道寺)



山越 伸一さん
(山越うどん代表取締役)

Interview

全国からファンが訪れる「かまたま」

当店の「かまたま」(釜上げ玉子うどん)は、30数年前からの人気商品です。当時の常連さんが自分で玉子を持って来ていたのが発端で、他のお客さんにもお勧めしたところ評判になり、タウン誌に取り上げられたことをきっかけに全国に知られるようになりました。高松空港から近いこともあり、6~7割が県外からのお客さんで、当店で初めて讃岐うどんを食べられる方も多いです。当店のスタッフも、北海道、大阪、広島と全国からうどん好きが集まっています。讃岐うどんはコシのある麺が特徴でしたが、今はもっちりして柔らかいものが主流になりました。これからも讃岐うどん本来の麺の風味を残しつつ、県外の方や若いスタッフの意見を聞いて、時代に合わせた食感に変えていこうと思っています。

うどんといちごの郷

道の駅滝宮・綾川町うどん会館

発祥の地ならではのお土産用のうどんに加え、綾川町のもう一つの特産品いちごのスイーツもたくさん。おいしさと楽しさがいっぱいの道の駅です。併設の農園では、1月から5月頃までいちご狩りが楽しめます。



土産物ショップ「ショップ綾川」

綾川町産のいちごを使った自慢のオリジナル商品が揃っています。「綾川そば」のほか、思わずアレコレも欲しくなる魅力的なお土産がいっぱいです。



セルフうどん店 「さぬきうどんの駅 綾川」

香川県産の小麦をブレンドした粉をその場で練り上げ、手打ちのおいさを満喫できるうどん店。綾川産のそば粉を使用した「綾川そば」もおすすめです。



苺づくしのスイーツ専門店 「うふ、いちご。」

苺をテーマに、洋菓子・和菓子・パンをずらりと取り揃えるほか、ソフトクリームやパフェ、ドリンクなどのカフェメニューも豊富です。



JA香川県ファーマーズマーケット「讚さん広場 滝宮店」
とれたての旬の野菜や果物はもちろん、精肉、鮮魚、加工食品などが満載の直売所。また、地元産の「さぬきひめ」を使ったジェラートも製造販売しています。



広がっている豊かな可能性

綾川は良質な果物の産地としても有名です。
 古くからの名産である富有柿はもちろん、近年、新品種「太秋」も人気です。
 また、イチゴ摘みが体験できるイチゴ農園があるほか、
 ブドウなどの栽培も盛んに行われています。
 果物を使った2次加工品の開発も盛んに行われている果実栽培。
 もうひとつの綾川農業の可能性をご紹介します。



道の駅滝宮いちご農園

香川県でも1、2を争うイチゴの名産地の綾川町。おいしいと評判の香川県オリジナル品種「さぬきひめ」が生産されています。道の駅滝宮では冬から春にかけて、イチゴ摘みが体験できるイチゴ農園があり、多くの来園者を楽しませています。



富有柿



太秋柿



大山 興央さん
 (香川県農業試験場 場長)

Interview

香川県産農産物の魅力を全国へとアピール

本試験場では、水に恵まれた綾川町という好立地を生かして、新品種の育成や栽培技術の確立に向けた試験研究、環境にやさしい農業の確立に取り組んでいます。香川県では、恵まれた気候と生産者の丁寧な栽培管理により、全国に誇れる高品質な農産物がたくさん生産されています。綾川町でも、イチゴの「さぬきひめ」をはじめ、シャインマスカット、アスパラガス、キュウリ、カーネーションなどの生産が盛んです。香川県オリジナル品種の果物や野菜、花卉の認知度を高めるため、「さぬき讃シリーズ」という総称を設定しました。「生産者の顔が見える農産物」をコンセプトに、イメージキャラクター「ベジィさん」などを活用しつつ、全国へとアピールしていきます。



変わりつつある綾川、 もうひとつの風景

巨大ショッピングモールが誘致され、新しいにぎわいの場がつけられました。
綾川町には近年、ベッドタウンとしての新たな顔が加わっています。
自然と調和しながら、新たな発展の可能性にもチャレンジする
綾川町の新しい風景を紹介します。

進む商業施設の集積につれライフスタイルも少しずつ変化

綾川町ではイオンモールの目の前にローカル線の高松琴平電気鉄道が綾川駅を開業させました。「綾川駅」という駅名には、「イオンモール綾川」というサブネームが付きます。この地域ではイオンモールの開業後、周囲にホームセンターやドラッグストア、家電量販店などが相次いで出店し、商業集積が進んでいます。そのため、町や県も協力する形で、電車だけでなくバスなどの公共交通も整備して、地域の利便性を向上させています。人々のライフスタイルも少しずつ変わり始めています。



イオンモール綾川



イオンモール店内



あやまるくん(イオンモール綾川マスコットキャラクター)



町営バス



綾川駅



未来へつなぐ、幸せプロジェクト

綾川町では行政と住民が協力して、町民の健康生活を守り育むための様々なネットワークづくりをおこなっています。
その拠点となる国保総合保健施設「えがお」と「いきいきセンター」をはじめとする各施設。
そして住民の健康や福祉、子育て、介護などをサポートするサービスやネットワークをご紹介します。



子どもたちに優しいまちをつくります



笑顔輝く綾川っ子

綾川町内のこども園では、『一人ひとりの子どもに「生きる力の基礎」を育成する』を基本理念とし、こども園・小学校・家庭・地域・行政が連携し、子どもたちに心身(知・情・意・体)の調和のとれた発達の基礎を培っています。
目指すこども像を「いきいき のびのび わくわく 笑顔輝く綾川っ子」として、地域の特色を活かしながら、健康な体・豊かな人間性・確かな学力が身につくよう、取り組んでいます。子ども一人一人が自己を十分に発揮し、自分のやりたいことに没頭して遊ぶ中で、個々の発達にとって必要な経験を積み重ねています。



えがお・いきいきセンター



町内の保健施設では、専門の職員が住民の相談に乗っています。

陶病院・診療所



住民のみなさんが安心して暮らせるように、地域に密着した医療を提供します。

介護老人保健施設あやがわ



明るく、快適に過ごせる空間づくりに努めています。

学びをつうじて、 豊かな幸せを育む

子どもたちへの地域に根差した郷土教育。
多くの町民が自主的に参加するスポーツ教室。
生涯を通じて様々な文化を学習する生涯学習など、
綾川町ではすべての町民が参加でき、学ぶことができる環境を整備しています。



綾上中学校と綾南中学校を統合し、綾川中学校が開校されました。未来ある子どもたちの学びの機会を充実させました。
(令和4年4月開校)

住民交流

綾川町には、住民目線の様々な施設が建設されています。よく学び、よく体を動かし、心身とも健康な体づくりのためのものです。



生涯学習センター



綾川町立図書館



綾川町ふれあい運動公園



綾川町総合運動公園



Interview



竹下 和男さん
(元中学校校長「弁当の日」提案者)

「弁当の日」全国各地に広がる

弁当の日を考案したのは2001年のことでした。教育委員会から久しぶりに学校現場に戻り、給食をおいしそうに食べていない子どもたちを目にしました。食べ物のありがたさを知らせるには、お弁当を自分で作らせたいと思い、すぐに実行に移しました。対象は家庭科がある小学5、6年生。献立、買い出し、調理、弁当詰めから片づけまで全て子どもにさせ、親は手伝わないうことにしました。

この運動は全国に広がり、今は全国1400校以上が取り入れています。退職後も、この運動を続け、これまでに1600回以上の講演活動も行っています。



そなえて守る、安全・安心な暮らし

綾川町では様々なインフラ整備やサービスをとおして、住民の安全で安心な暮らしをサポートしています。また、様々な大規模災害を想定しての防災対策や安全対策を図りながら防災訓練の実施や自主防災組織づくりを推進し、万全に備えています。



緒方 正敬さん
(消防団団長)

Interview

自分たちの町は、自分たちで守る

町内の消防団は地域別の9分団に加え、防災・防火に関する啓発活動や避難所運営等の災害支援活動を行う女性分団と災害支援分団で組織しています。
消防団員は、資機材の点検や消防技術の向上に励み、1月の消防出初式、3月の林野火災防ぎょ訓練、6月の町操法大会など、各種訓練を通じて町民への火災予防啓発活動を続けており、消防使命達成のため昼夜を問わず邁進しています。
また、11月の地区防災訓練では、女性分団と災害支援分団がサポート役となり、地域住民が主体となって避難所運営訓練を実施しています。
自分たちの町は自分たちで守るという気概で、今後も全団員が協力して活動していきます。

いいひと いいまち いい笑顔

住まいる あやがわ

「持続可能で快適な町」「誰もが住みたい町」へ

少子高齢化や、人口減少の急速な進行による人口構造の変化、長引く景気低迷やグローバル化する経済情勢など、私たちの生活や地方行政を取り巻く環境は大きく変化しています。

その中でも、人口減少、少子高齢化への対応は喫緊の課題であります。こうした社会情勢の変化を踏まえながら、多様化する住民のニーズに対応するため、「いいひと いいまち いい笑顔 ～住まいる あやがわ～」を目指すべき将来像とし、住民の皆様をはじめ、綾川町に関わっているすべての人々が、笑顔で幸せに「住み続けたい綾川町」を目指しております。

また、2022年11月30日に、1000年を超え地域の人々によって保存・継承されてきた「滝宮の念仏踊」が「風流踊」の一つとしてユネスコ無形文化遺産へ登録されました。このことは綾川町にとって世界文化遺産を後世に引く継ぐための大きな励みとなるもので、地域、保存会と共に保存継承に努めますとともに地域の活性化にも大きな役割を果たすものと考えております。

人口減少に総合的、効率的に対応し、「持続可能で快適な町」「誰もが住みたい町」を目指し行政運営に取り組んでまいります。

綾川町長 前田 武俊



情報満載… 広報あやがわ



町民と行政の架け橋になっているのが、毎月発刊している「広報あやがわ」です。すでに200号を超えています。写真やイラストをふんだんに盛り込み、わかりやすく、見やすく編集しています。

いつも笑顔で… 役場窓口



窓口対応でいつも心がけているのは「笑顔」です。分かりやすく、丁寧、迅速をモットーにしています。住民生活でお困りのことがありましたら、気軽に役場にお越しください。

絆のかなめは私たちが担います。

各種住民サービスから教育、防災、広報まで、
もっと住みやすい綾川町を目指して日々頑張る職員たち。
それぞれの個性や才能を活かして、
町民の皆さんの絆のかなめを担っていきます。

